

# 平成30年度 学校評価実施報告書

京都市立烏丸中学校

## 教育目標

- 「生きていく力」の育成
- ◎人権を大切にし「五つの心」「JAS」を実践する力
- ◎仲間と共に学びを深める力
- ◎健康を保持、増進する力

## 年度末の最終評価

自己評価	<b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・「五つの心」「JAS」を合言葉に豊かな心を育み、「学習をはやらす」を合言葉に学力向上を目指してきた。その結果、生徒の意識は高まり、3年生では休憩時間でも学習する姿が見られ、互いに教え合ったりする様子も窺えた。</li><li>・文化祭、体育祭、伝統文化教育で自己有用感を育み、達成感を高めることができた。今後は、道徳授業の充実、工夫により思いやりの心や人権意識を高めていきたい。</li><li>・支援の必要な生徒を学年を超えて、多くの教職員でみる体制が確立しつつある。生徒の心の背景を理解した生徒指導も各学年浸透しつつある。今後は、授業力の向上に努めていきたい。</li></ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・「五つの心」「JAS」といった取り組みは学力の向上だけでなく、心に訴える取組で、人権に焦点を当てた、今の生徒には欠かせない取り組みであると思われる。是非継続してほしい。</li><li>・地域の特色を踏まえた上で、小規模校の特徴をうまく生かした取り組みがなされていて、大変すばらしい。</li><li>・今後も生徒を大切にした教育実践を継続してほしい。</li></ul>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月25日	学校運営協議会
最終評価	平成31年3月1日	学校運営協議会

## (1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

### 重点目標

- 小規模校・少人数の利点を最大限に生かす
- 地域の伝統的・文化的な環境を活用する
- LD等支援の必要な生徒の学力向上

### 具体的な取組

- ・学力低位生徒、LD等支援の要支援生徒に対し、ケース会議を持つなどして、具体的支援の方法について組織的な取り組みをすすめる
- ・ジョイントプログラム、学習確認プログラムを教科の学習サイクルに位置づけ、家庭学習の課題ともリンクさせる。家庭学習の定着に向けて、チェックと指導を行う
- ・言語活動を活用した教科学習について授業研究を行う。教師間のグループ研修を実施し、従来の学習アンケートに基づいた授業の視点をもとに各教科の“深い学び”につながる授業の改善に活用する
- ・伝統文化教育を学校行事や総合的な学習の時間などの系統的な実施で連携して進める。
- ・3年生2クラスを3分割し少人数学習を行う（社会・英語・数学）
- ・テスト前学習会の全学年実施

### （取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力診断テスト
- ・学習確認プログラム
- ・学習アンケート
- ・提出状況チェックシート
- ・生活アンケート
- ・進路希望調査
- ・教育相談

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・各教科での学習活動の取組は一定の定着が見られるが主体的な学びといった点では不十分な点も多い。今後さらに深い学びへと発展させるための授業作りが課題といえる。
- ・提出状況チェックシートの結果、未提出者が数名いることも課題である。
- ・進路希望調査の9月結果では、公立全日制普通科55%，専門学科19%，私立26%と昨年に比べて公立高校への進学希望が増えている。

自己評価

### 分析（成果と課題）

- ・学習確認プログラムの結果でいえば、学年が上がるにつれ、成績順位も伸びてきている。これは、生徒の取組む姿勢に意識が向上したことによると思われる。ただ、家庭学習の時間や内容は不十分な点も多く、各学年にいる支援を要する生徒への対応にも課題が見られる。

### 分析を踏まえた取組の改善

- ・各教科による授業とリンクした家庭学習課題の設定を行う。
- ・各教科によるグループ活動や学び合い活動の充実と定着を図る。
- ・総合育成支援委員会を通し、支援を要する生徒の情報共有を徹底する。

### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・進路希望調査
- ・教育相談
- ・進路相談会
- ・提出状況チェックシート

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けて、授業改善や家庭学習の成果が現れてきたように思う。今後は進路に関する様々な情報を細かく保護者に知らせてほしい。</li> <li>・休日参観やオープンスクールで授業の様子を見る機会があるのは良いこと。</li> <li>・家庭でも提出物についての指導を徹底していきたい。</li> <li>・少人数による指導は生徒の学力向上にとってありがたい。</li> </ul>

## 最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力テストの結果は全国平均より各教科とも高い。また、確プロの結果も全市の中では上位にある。</li> <li>・家庭学習の習慣化といった点では、ある程度の定着は見られるが、中身については改善の余地がある。</li> </ul>
	<p><b>分析 (成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの教科で小集団活動や学び合い活動が展開され、その結果が学力テストに反映されているようである。</li> <li>・課題としては、支援を要する生徒や学力低位生徒への組織的な支援が弱いことがあげられる。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初にグループ活動や学び合い活動の意義や内容を確認し、積極的に取り組む体制を作る。</li> <li>・支援を要する生徒や学力低位生徒への対応として、学生ボランティアや総合育成支援員の協力のもと、放課後学習を実施する。また、総合育成支援教育委員会で支援策の対応などについて検討していく。</li> </ul>
	<p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生2クラスを3分割し少人数学習を行う（社会・英語・数学）ことでの成果は実りつつある。その結果として、3年生の進路状況がほぼ希望通りであることからも顕著である。</li> <li>・伝統文化教育においては、地域の方々やPTAのご協力の下、生徒にとって満足いく体験活動が実施できた。これにより、生徒の自尊感情も高まった。</li> <li>・上記の目標に対し、ある程度の達成は確認できたものの、共通して言える課題は、生徒自身の積極性に欠ける点である。また、支援の必要な生徒への学力向上に向けた具体策も見直す必要がある。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けての取組が一定の成果を生んでいるようである。また、学校が落ち着いた雰囲気で学習できていることも要因の一つとなっている。</li> <li>・進路に関する様々な情報をきめ細かく保護者に伝えてほしい。</li> <li>・授業参観や進路説明会などへの積極的な参加を呼びかける。</li> </ul>

## (2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
人を思いやる心を培い、自分自身を大切にできるように、規範意識を高めはじめある生活を送る

### 具体的な取組

- ・学校生活目標の J(時間)・A(挨拶)・S(掃除)を本年度も中心においていつでも意識させる
- ・五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）を昨年度から掲げ、生徒たちにも浸透してきているため、本年度もあらゆる機会をとらえて意識させる
- ・生徒会執行部による全校集会などでの運営や司会を行わせることで、自信をつけていく
- ・生徒会活動や教科授業などを通じて、自分の考えを発表することや、自分以外の人の意見をしっかり聞けるなどの力をつける機会を増やし、互いを大切にする心を育てる
- ・地域の文化や環境を肯定的にとらえ、地域を愛する心を育てる
- ・人権教育や道徳教育を通じて、豊かな感性と情操を育む
- ・行事などで成功体験を実感できる取り組みで、クラスや学年、学校の絆を高める
- ・携帯電話教室や非行防止教室などで、規範意識を高める力を育てる

### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・保護者評価アンケート
- ・生徒アンケート

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・「自分の事を大切な人間だと思うこと」の質問は、各学年とも重要度・実現度ともに高ポイントである。特に3年生では、昨年前期の重要度が5.2から6.0に、実現度は3.8から4.8に上がっている。
- ・「自分に自信をもつこと」の質問では、各学年とも重要度が6.3と高く、特に3年生の昨年の結果5.6から6.3と高い伸び率を示している。

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・分析結果を見ると、自己肯定感や自己有用感といった自尊感情が育ってきているといえる。課題としては、様々な行事への自主性や積極性に欠ける点が上げられる。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・自主性や積極性を育てるための取組として、生徒会を中心とした「あいさつ運動」の活性化や集会の企画・運営の推進。
- ・地域行事への積極的な参加や地域への貢献活動。

#### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・保護者アンケート
- ・生徒アンケート

### 学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていく。
- ・生徒会活動や行事を通し、上級生が下級生の良い見本となり、良い雰囲気が作られている。小規模校の利点を活かして、今後も豊かな心の育成に努めてもらいたい。
- ・課題としては、目標を達成するための主体性と積極性が欠けることである。

## 最終評価

<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・「誰に対しても挨拶すること」の質問では、1回目に比べ、どの学年も重要度は下がっているものの、実現度は高くなっている。</li><li>・「学校の雰囲気が良いこと」の質問でも重要度が1回目に比べ、0.2下がっているが、実現度は全体的には0.3高くなっている。</li><li>・「自分の事を大切な人間だと思うこと」「自分に自信をもつこと」「自分の事を表現すること」の各項目は、学年が上がるにつれ、重要度が高くなっている。これは、上の学年ほど自尊感情が高いことを表している。</li></ul>	
<b>自己評価</b>	
<b>分析 (成果と課題)</b>	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒会を中心に毎月行っている「あいさつ運動」や全校集会により、生徒の自尊感情の醸成が育成されつつある。</li><li>・課題としては、地域行事への参加や地域貢献への積極性に欠ける点である。</li></ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後も生徒会を中心にあいさつ運動や全校集会の企画・運営をさらに推進していく。</li><li>・伝統文化教育を通して、自己有用感の育成を助長する。</li></ul>
<b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b>	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート結果からも、自尊感情に関わる質問への重要度は高いことから、ある程度の達成感は確認できる。また、規範意識も「学校のきまりや規則が適切であること」の回答が、重要度・実現度ともに高いことから、意識の高まりを感じる。今後は、道徳教育の充実により、「他人を思いやる心」を育成していきたい。</li></ul>
	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・伝統文化教育に関わる取組の中で、上級生は下級生を、下級生は上級生に対し互いに認め、尊敬し合う関係が見られる。</li><li>・小規模校ならではの良さをさらに活用し、豊かな心の育成に尽力してもらいたい。</li><li>・伝統文化教育の推進に向け、PTAや地域としてもできる限り支援をしていきたい。</li></ul>

## (3) 「健やかな体」の育成に向けて

<b>重点目標</b>
健康を保持増進し、安全な生活を自主的に送ろうとする意識を高める
<b>具体的な取組</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・生活アンケートの実施</li><li>・薬物・非行防止教室の実施</li><li>・交通安全教室の実施</li><li>・避難訓練等を通じて安全に対する意識を高める</li><li>・性に関する指導の実施</li><li>・食教育の実施</li><li>・健康教育（喫煙・アルコール・薬物など）の実施</li><li>・リスクマネジメント研修と危機管理マニュアルの見直し</li></ul>

- ・地域防災の拠点として、地域や小中が連携した学校のあるべき姿の模索
- ・教育相談の実施
- ・安全点検の実施
- ・健康観察の実施

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生活アンケート
- ・各種教室後の生徒感想アンケート

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・「悩みを相談できる場が学校にあること」の質問では、各学年ともに重要度・実現度が高い、特に2年生は、昨年が重要度2.9、実現度2.4から今年は重要度6.1、実現度5.0と倍以上のポイントとなっている。
- ・10月に実施した「非行防止教室」では、「万引きと空き巣が同じ罪の重さだと初めて知った」や「人をからかったり、暴言を吐くこと（いじめ）も犯罪だと知った」などの意見が多かった。

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・生活面での大きな乱れは見られないが、全体的に睡眠時間が短いといった現状がある。
- ・健康教育のさらなる充実が必要である。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。
- ・健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・生活アンケート
- ・各種教室後のアンケート

### 学校関係者評価

#### 学校関係者による意見・支援策

- ・違法薬物の乱用の低年齢化が心配である。今の時代はSNSなどを使って簡単に手に入ることから、家庭での教育力が大事である。
- ・思春期の時期は、少人数の方が目がよく行き届くのでいいと思う。ただ、今の子どもたちは繊細なので人間関係に気をつけなければいけない。
- ・登校時の荷物の多さ、重さが気になる。

## 最終評価

### 中間評価時に設定した各種指標結果

- ・生活習慣は家庭の安定度が高く、比較的良いと思われる。しかし、学年が上がるにつれて乱れ気味になっている。

### 自己評

#### 分析（成果と課題）

- ・ケータイや非行防止、薬物乱用防止の各教室での取組により規範意識が確立してきている。
- ・課題としては、避難訓練の充実と小学校との連携による防災教育の推進である。

価 値	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にアンケートなどを実施し、日常生活の振り返りなどを行うことにより、規則正しい生活習慣の定着を推進する。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝行う健康観察により、自己の健康状態が把握できた。また、様々な健康教育を通して健康の保持増進や快適で安全な生活に向け、意識の高揚につなげることができた。今後もこれらの取組を引き続き推進していきたい。</li> </ul> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や小学校と連携した防災教育の取組が必要である。</li> <li>小規模校ならではのメリットを活かし、合同部活動や他校との連携などにより、生徒のニーズに応えられるようにしていく。また、できる限り公式戦に出場する機会を与えてほしい。</li> </ul>

#### (4) 学校独自の取組

重点目標	伝統文化教育の充実及び少人数を活かした教育の実践
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種伝統文化体験           <p>(和菓子作り体験、組紐作り体験、茶道体験、西陣織着付け体験、陶芸教室、百人一首大会など)</p> </li> <li>体育祭などの縦割り集団の活用</li> <li>少人数クラスの編成（3年生による三分割授業）&lt;社会・数学・英語&gt;</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者評価アンケート</li> <li>文化体験後のアンケート</li> <li>体育祭、文化祭後のアンケート</li> </ul>

#### 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の質問では、各学年重要度5.6前後であるのに対し、実現度が4.0前後と低い傾向にある。</li> <li>「学校行事が充実していること」の質問では、重要度6.5、実現度5.4と高い傾向である。</li> <li>「少人数を活かした取組をすること」の質問では、重要度6.3、実現度5.4とともに高い傾向である。</li> </ul>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性を活かした伝統文化教育は本校の特色である。今後も伝統文化教育に関わる取組は継続していく必要がある。ただ、行事による授業時間確保が困難な場合に備え、行事の精選が課題となってくる。</li> </ul>

学校 関係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートによると「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の質問では、ニーズ度が2.2.1と他の質問に比べ低い傾向にある。これは、保護者の意識が伝統文化よりも学力向上を重視しているためだと認識できる。改善策としては、より詳しくこまめに学校での様々な取組や行事を、ホームページや学校だよりを通して紹介し理解して頂くことがある。</li> </ul>
	(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート</li> <li>・伝統文化行事体験後のアンケート</li> </ul>
学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化教育については、小学校4年生から取り組んでいるため、保護者の意識としては、「またするのか」や「以前に体験しているのに」といった思いがあるが、決して軽視しているわけではない。</li> <li>・中学校には一生懸命頑張る場面がたくさんある。少人数ゆえに頑張らないと目立ってしまう。</li> </ul>

## 最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の質問では、前回に比べ重要度は下がってはいるが、実現度は上がっている。</li> <li>・「学校行事が充実していること」「小規模校の利点を最大限生かした取り組みを行うこと」「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」といった質問に対する保護者の回答が、1回目と2回目では実現度が1年生で0.7、2年生で1.5、3年生で0.5高くなっている。</li> </ul>
	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化教育は本校の特色ある取組として普遍化していく。</li> <li>・少人数を活かした教育も概ね支持されているので、今後も継続させていく。</li> </ul>
学校 関係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化教育の意義や方向性を年度当初の会議や研修会で共通認識し、全教職員が一丸となって取り組むことを確認する。</li> <li>・学力向上に向け、少人数教育をさらに推進していく。</li> </ul>
	重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色でもある伝統文化教育、この取組により生徒の自尊感情にも、ある程度の意識の高まりが見られた。また、少人数体制の授業においても成果が現れつつある。しかし、学力向上に向けて、行事を精選していく必要はある。</li> </ul>
学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数ならではの一体感が、体育祭や各種行事で見られる。</li> <li>・伝統文化教育を整理し、地域の特色を活かした教育として継続させたい。</li> <li>・地域の行事にたくさんの子どもたちが参加できるようにお願いしたい。</li> </ul>